

「全国市議会議長会研究フォーラム」 in 金沢に参加して！

10/21～22日、古き良き伝統が息づく趣のある文化と現代に起こる先進の文化とがほどよく溶けあい、独特の深みと味わいを持つ都市、金沢で開催され、公明党蕨市議団松本 徹、高橋悦朗、大石幸一全員が参加しました。



開催場所である**金沢歌劇座**（かなざわかげきざ）は、石川県金沢市下本多町にある多目的ホールである。旧称は**金沢市観光会館**と言ったが、2007年10月1日に改称されています。



設立当初のみ観光物産コーナーを設けていたが、その後は催物ホールと化していた。そのため観光客からは「観光物産館と間違えやすい」という声が多く、改称論議が持ち上がった。2006年3月から市文化施設名称検討委員会が検討を続けた結果、2007年10月1日に金沢歌劇座へ改称された。

初日は、基調講演「日本再生の起爆剤」とパネルディスカッション「地方議会はどう変わるべきか」が行われました。二日目は、「議会基本条例を考える」「議員立法の現状と課題」という先例市の事例報告に基づき課題討議が行われました。

「議会は、多様な民意を反映しつつ、団体意思の決定を行う機能と、執行機関の監視を行う機能を担っているが、十分にその役割は果たされているのか。地方分権の進展等に伴い、地方公共団体の処理する事務は今後さらに増大するとともに、事務の処理に当たっても、条例により自主的に定めることのできる範囲が拡大するなど、責任領域が拡大すると考えられ、議会機能のさらなる充実、強化が求められる。近年、議会の活動理念とともに、審議の活性化や住民参加等を規定した議会基本条例を制定するなど、自主的な改革の取り組みが進められることが期待される。」

一つ一つのテーマは、興味深く、各パネリストは独自性を持って掘り下げ発表し、コーディネーターの進行により淡々と展開されました。第二期地方分権改革の進展に伴い、今後都市に多くの権限が移譲されることとなりますが、議会は、監視機能等その果たすべき役割がこれまで以上に重要となってきます。我々は、そうした役割を果たし、真の地方自治の担い手として市民の負託と期待に応えるには、議会改革に積極的に取り組み、自己研鑽、自己啓発に努めていかなければなりません。

我々が、議会の更なる機能強化を目指し、共通する課題等に意見交換をし、議員同士の連携を深め、今回の二元代表制における議会のあり方に対する専門家、識者の意見を参考にし、今後の活動の一助にしていきたいと感じました。